



田淵太郎展 生死一如

2019年9月14日(土) - 22(日) 会期中無休

GALLERY
うつわノート

料金後納
ゆうメール

田淵太郎展 生死一如

二〇一九年九月十四日(土)

―二十二日(日) 会期中無休

営業時間 十一時―十八時

作家在廊日 九月十四日

ギャラリーうつわノート

埼玉県川越市小仙波町1丁目7の6



プロフィール

1977年 香川県生まれ

2000年 大阪芸術大学工芸学科陶芸コース卒業

2007年 香川県高松市に穴窯を築窯

2019年 現在、同地にて制作

「静と動」「表と裏」「内と外」「愛と憎」「苦と楽」「善と悪」「破壊と創造」……。ものごとには常に二面性があり、それを二項対立として見るのか、表裏一体として捉えるかで人生観は変わってくるでしょう。東西分裂した国々の境が無くなったこの時代に於いても、思想・宗教・国家・民族間で対立している状況を見ると、つくづく人間は愚かなものだと思います。遡って考えるなら、根っこはひとつでそれが分化したのだから。一方があって、もう一方が同時に存在することをお互いが許容できればどんなに良いことか。しょせん生きるということはいつか死ぬ、死ぬということはそれまで生きている、生と死は切り離すことはできない「生死一如」に過ぎぬ訳ですから。ものごとをきっぱりと二分するのではなく、その境界の曖昧さを受け入れること。ここに真実が隠れています。考えてみれば日本の美意識はこの曖昧さの中にあるように思えます。意識と無意識の両面があってこそひとつが成り立っている。田淵太郎さんの薪窯で焼かれた表と裏で景色の違う白磁を見ているとそんな気持ちになるのです。

店主